



巻頭言 安曇野市議会 9 月定例会 報告と陳情に関する一考察

9 月定例会が終わりました。主要議案の令和 7 年度一般会計決算認定は賛成多数で認定されました。その他市民から提出された 5 つの陳情を議会がどのような議決をしたのか紹介します。また市民の政治参加の一つである陳情について議員としての一考察を書きます。

● PFAS に関する陳情

→賛成少数で不採択に

陳情内容：市役所の地下駐車場の PFOS 含む泡消火剤を安全な物に変える／PFAS についての啓発を行うという内容の陳情（※ 6 月定例会一般質問でも私が訴えた内容です。）総務環境委員会の審査では、PFOS を含む泡消火剤を安全な物に交換する項目について賛同しているのに、議決では賛成と反対に分かれるという分かりにくい審査結果がありました。これについて議会運営員会、全員協議会において、議長である私から、市民にとって分かりやすい討論を心がけること、また議会の会議規則には請願・陳情の判断基準として、「願意が妥当であるか」、「実現の可能性があるか」が示されており、これについてもしっかりと認識することをお願いしました。また今回の事案は我々議会が言論の府として、討論のレベルを上げていくチャンスにしたい旨

を伝えました。

陳情審査の際、行政から、「地下駐車場の泡消火剤の交換について新年度での予算化を検討している。」と前向きな答弁がありました。予算化を期待します。

●陳情「安曇野市民の深刻な議会離れを改善する取り組みをしてください」 →賛成少数で不採択に

陳情項目は以下の 5 点

- ・議会と暮らしがどう関わっているかを知ってもらえるような啓発をすること
- ・議会開催前から、開催の宣伝と傍聴参加の呼びかけを行うこと
- ・議会期間中、議会が開催していることを庁舎内や市内で宣伝すること
- ・議会期間中、来朝する市民に議会の傍聴を促したり、議会中だと案内すること
- ・議会の宣伝活動を担ってくれる市民を募り、仕事として宣伝活動をしてもらうこと（ボランティアでなく）

反対討論では、最初の 4 点には賛同するが、5 点目は、「ボランティアでなく有償で議会宣伝をすることについて、公費を使うならばその検証ができるのか。」「政治的中立性をどう担保するのか。」という反対意見がありました。結果は不採択でしたが、市民にとって議会が身近なものになるように、現在議長として諮問している議会 SNS の発信や高校

みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政や議会が市民にとって身近になるために、虹（＝Rainbow レインボウ）の架け橋となるような議員活動をしていきます。望三郎の活動はブログやフェイスブック、インスタでもどうぞ。



ぼうざぶろう

増田望三郎の
市議活動だより

生との意見交換会の開催など、より具体的な取り組みを実現していきたいです。

●陳情に関する一議員としての考察

請願・陳情とは市民が国や自治体議会に対して意見や要望を伝えるための制度。

請願も陳情も市民が政治参加する大切な機会です。請願は紹介議員が必要ですが、陳情は必要なく、提出のハードルが低いと言えます。他自治体議会では陳情は書面配布するだけに止（とど）めている議会もありますが、安曇野市議会は請願と同等の扱いで審査をしています。この点において、安曇野市議会は、より市民に開かれた議会と言えます。

実際、議会での審査の際、陳情に関係する方々や関心を持った市民が傍聴に来られます。市民にとってハードルの低い陳情が市議会ですっきりと議論されることは、市民と議会が近くなる効果を生み出していると言えます。もちろん、審査する我々議員の態度やあり方も重要です。

市民からは毎定例会ごとに複数の陳情が出され、それを我々は審議をし、それぞれの知見をもって賛成または反対の議決をしなければなりません。趣旨は理解できるが、項目には賛同できず、苦渋の反対をする議員もいます。（私もそういう場合もありました。）

議会は言論の府、なぜ賛成なのか、なぜ反対なのか、という持論をより鮮明にした討論を心がけ、議員の考え方や議会がどのような議論をして採決しているのかが、市民にとって分かる議会にしていきたいと思います。

●プロフィール

大分県出身 57 歳。東京経由で安曇野に移住し 23 年目に。三郷小倉に妻、妻の両親と暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿（ちきゅうやど）』を経営。安曇野市議 4 期目。現在議長。好きな言葉は『出会い、共感、展開』



サポーターからの応援メッセージ ④8



高橋 博さん

（穂高、ひつじ屋）

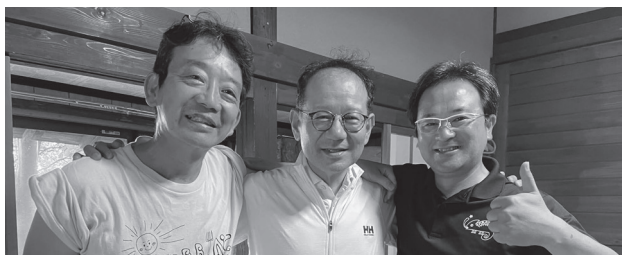
演劇公演の実行委員長に選ばれた望さんと共に活動したときのこと。2008 年、彼が市議選に挑戦する前の話です。公

演が終わり、打ち上げで市内のカラオケ店に行きました。望さんが選んだのは、佐野元春「SOMEDAY」。大音量のイントロが始まるや、真ん中に据えられた大きなテーブルの上でマイクを持つ男、そして熱唱…。何てバカなんだろうと思いました。いやこの紙面でバカと呼ぶのもあれなんですけど、リーダーとしてひと仕事終えたあとの宴席で、一番のバカになれる望さん。彼の器の大きさを思いました。先日、店を閉じる相談（ひつじ屋は 2026 年末閉店予定）に行ったとき、市長選に立候補する気持ちはあるかと尋ねました。それはない、自分のやりたいこととはちがうから、とおっしゃる。それも望さんらしいのかもしれません、もしも彼が市長になったら、いったいどんなことを考え、実行するだろう。想像しただけでワクワクします。そんな望さんに、観光業者として「遺言」を残すなら、どうぞ安曇野の風景を守ってください。北アルプスの山並み、その下に広がる田園風景、人々の平和な暮らし。この地に暮らす者の喜びであり、誇りでもあります。とりあえず「のぼり旗」と「ブルーシート」が無くなったら、景観はだいぶ改善されると思うよ。

卒近代合宿を開催

卒近代とは「これまでの近代社会（工業社会、効率やGDP、競争を最重視する社会）がもたらしてくれた豊かさに感謝しつつ、学校を卒業するように次の新しい社会へとステップアップしよう」という思想。鈴木寛さん（東大・慶応大教授）が提唱されています。

その鈴木さんも参加し、全国各地から教育をテーマに県内・県外の先生、教育関係者、文科省官僚などが集まった合宿を地球宿で開催しました。現在次期学習指導要領改訂に向けての議論が進んでいます。授業時数の削減と柔軟化による「余白」の創出、情報活用能力の強化、および個別最適な学びの実現が主な改訂点になります。これらが安曇野市の公教育においてもどのように進められていくのか機を見て議会質問を行いたいと思います。



卒近代社会を提唱する鈴木寛さん、企画主催者と

黒沢洞合自然公園が 拡張リニューアルしました

三郷小倉にある黒沢洞合（くろざわどあい）自然公園がこの度拡張工事を終え、供用が開始されました。自然公園に隣接する民有林地を皆伐して、太陽光パネルを設置する事業者の計画が起こったのが2021年でした。森林を切り拓いておきながら、パネル設置によりCO2を削減するという矛盾した事業計画に対し、自然破壊や環境への影響を懸念する地元住民を中心とした反対運動が起こり、私も議員として活動に参加しました。大規模な署名活動や公聴会が開催され、2023年2月に

土地利用審議会の「洞合公園の魅力は該当地だけでなく、周辺地域と一体的にその魅力を形成している」という答申と当時の太田市長（故人）の英断により、業者の開発申請は不認定となり、計画がストップしたのです。その後、安曇野市は野立ての太陽光パネル設置を規制する太陽光条例を作りました。私たちの反対活動が黒沢洞合公園とその周囲環境を守るだけでなく、風光明媚な景色と自然景観を有する安曇野市の全域にも及ぶ条例制定へとつながっていったのです。洞合公園は現在地元住民から成るNPO法人により運営されています。この素敵な自然公園にぜひ散策や自然観察にお出かけください。



拡張されリニューアルした三郷小倉にある黒沢洞合自然公園

市民の「安曇野おいしい水プロジェクト」学習会に参加して

安曇野の大切な地下水をこれからも飲み続けられるようにという市民有志による「安曇野おいしいお水プロジェクト」の学習会に参加しました。学習会では市の上水道課が、日頃何気なく水道の蛇口をひねって飲んでる水が、どのようにして安全で美味しくなっているのかを分かりやすく話してくれました。最後には利き水（どれが安曇野の水か、ミネラルウォーターかの水の飲み比べ）もあり、とても面白かったです。市民から質問もたくさん出て、安曇野の水に関する関心や意識の高さも感じられました。中でも、「ペットボトル業者が無料で地下水

をくみ上げて、それを営利目的で販売している。我われは水道料をちゃんと払っているのに。また豊富な地下水源も大丈夫なのか？（地下水が減っていかないのか）」という質問がありました。その時の上水道課の答えは、「我われは上水を安全で確実に届けるのが役割で…」と返答がありませんでした。市民にとっては、**美味しい水を飲むということと、その水源である地下水がこれからも抱負に維持されること、また貴重な水資源を起業の営利目的のために野放しに使われることへの懸念はつながっているのですね。**

これについて説明すると、
・水道料金は蛇口から出る水道水に対して従量制で課金しており、業者が井戸を掘ってくみ上げる地下水は、その土地の所有権の一部としてみなされ現状は無料。
・水環境を保全する観点から、水環境審議会などでは、地下水を利用する者（ペットボトル業者などの事業者、養鱒業者、水道を通して地下水を飲む一般市民など）にその使用量に応じた負担金制度の検討をしている。
・負担金を徴収しても、それを利用して行う地下水涵養の施策が現在では定まっていなため、保留状態になっている。という状況です。安曇野の水環境や地下水保全に関心を持つ市民が増えることやこのような市民活動がとても大切です。次は環境課による「安曇野市の地下水を守るために！」というテーマで、学習会第2弾の開催を期待します。

望三郎議員とのカフェトーク

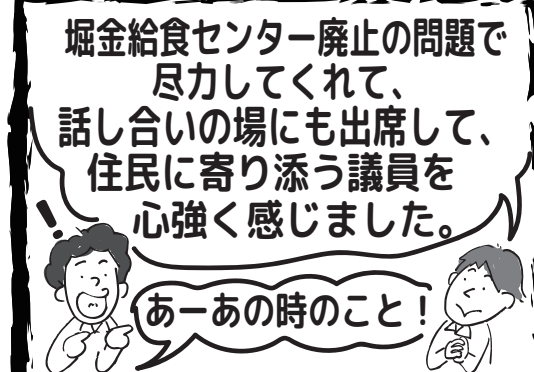
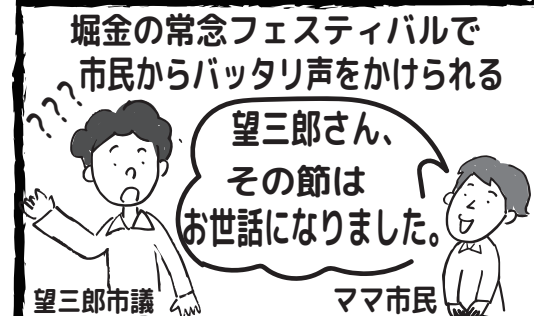
日時：11月8日（日）pm1:30～3:30
場所：蔵のカフェレストラン清雅（豊科3550-1） 市政の様々な課題や市民のみなさんが関心あるテーマについて、望三郎議員の考えを聴いてみたい、自分の考えも聞いてもらいたいという方、どうぞご参加ください。

望三郎市議が行く！

第48話

『市民一人の願いに寄り添える議員に』

出演 ☆ 望三郎市議 にじと ピース



※2021年堀金給食センター存続を願う市民からの意見交換会開催を当時の議会が断ったが、有志議員と市民が非公式の会を開催した。その後市は方針変更し、給食センターは存続に。



あれから5年、議員の頑張った姿が市民にしっかり残ってるんだなあ。

